

“変ニ長調と  
変イ長調の世界”ー変ニ長調と変イ長調の名曲を探るー

プログラム

今日は“調性”を特集するシリーズ、変ニ長調と変イ長調で書かれた名曲を集めてお送りします。  
シューベルトの「ます」は18世紀の詩人シューベルトの詩を基に20歳の時に作曲されました。谷川を泳ぎ、飛び跳ねる様を生き活きと描写した名作です。後にピアノ五重奏曲第4楽章の主題に使われ一層親しまれています。ウエーバーの「舞踏への勧誘」は愛妻の誕生日の贈り物として作曲されました。舞踏会で紳士が淑女に踊りを求める「序奏」、勧誘に応じて華やかな舞踏会が描写される「主部」、そして終わった後の儀礼が「後奏」という詩的な標題音楽の先駆的な作品として知られる名曲です。1841年にベルリオーズが管弦楽用に編曲してさらに有名になりました。ヤナーチェクの「タラス・ブーリバ」は17世紀にポーランドに戦いを挑んだコサック隊長の英 タラス・ブーリバを描いたゴーゴリの歴史小説を基に作曲。ドラマティックで表現豊かな管弦楽に魅了される名曲です。シューマンの「謝肉祭」は1835年に作曲。「4つの音符にもとづく小景」という副題が付けられた20曲から成る曲集です。ロマンティックな情緒と華やかな技巧を駆使した高い演奏効果を持ち合わせた初期の傑作。ベートーヴェンのピアノ・ソナタ第31番は最後のピアノ・ソナタ3曲の中間に位置する作品。優しさに溢れた第1楽章、アリオソ（嘆きの歌）とフーガが交互に現われながらクライマックスを作って行く第3楽章など豊かな曲想を持った名曲です。即興曲は1827年頃に作曲されたシューベルトの叙情的な特質が純粹に発揮された曲集ですが、第4番は少しもの悲しい美しい旋律で知られる名曲です。エルガーの交響曲第1番は1908年に完成、高貴な香りと豊かな叙情性など巧みな管弦楽法が見事に開花したイギリス音楽史上最初に現われた交響曲の傑作です。ごゆっくりお楽しみください。

\*\*\*\*\*

**フランツ・シューベルト (1797~1828) :**

**歌曲“ます” D.550 (変ニ長調)**

エリー・アメリック (ソプラノ) / ルドルフ・ヤンセン (ピアノ)  
(1987.12.8 サントリーホールでのLive)

**カール・マリア・フォン・ウエーバー (1786~1826) :**

**「舞踏への勧誘」 op.65**

【原曲ピアノ版 変ニ長調】 アレクサンダー・パレイ (ピアノ) (1994.1.15 CD盤)

【ベルリオーズ管弦楽編曲版 ニ長調】

佐渡 裕指揮 ウィーン・トーンキユンストラー管弦楽団  
(2016.6.17 オーストリア、グラフィエネッグ・野外音楽堂でのLive)

**レオシュ・ヤナーチェク (1854~1928) :**

**狂詩曲“タラス・ブーリバ” 1.アンドレイの死 2.オスタツフの死 3.予言とタラス・ブーリバの死~抜粋**

チャールズ・マツケラス指揮 ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(2007.4.22 ウィーン・ムジークフェラインサールでのLive)

**ロベルト・シューマン (1810~1856) :**

**「謝肉祭」変イ長調 op.9 ~抜粋**

アリシア・デ・ラローチャ (ピアノ) (1973.7.26 東京文化会館大ホールでのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827) :**

**ピアノ・ソナタ第31番変イ長調 op.110 ~ 第1楽章、第3楽章から**

マウリツィオ・ポリニーニ (ピアノ) (1998.4.25 サントリーホールでのLive)

**フランツ・シューベルト (1797~1828) :**

**即興曲第4番変イ長調 D.899**

内田光子 (ピアノ) (2005.10.9 コンセルトヘボウ・リサイタルホールでのLive)

**エドワード・エルガー (1857~1927) :**

**交響曲第1番変イ長調 op.55 ~ 第1楽章から、第3楽章、第4楽章から**

尾高忠明指揮 BBC交響楽団 (1998.8.4 ロンドン、ロイヤル・アルバートホールでのLive)